



滴

しずく

私たちの主人公の名まえは滴です。滴には四人兄弟がいました。両親と兄弟はみんな雲にすんでいました。この雲の名まえは日差しでした。日差しはとても大きくてまろい入道雲でした。兄弟の中で一番小さいのが兎の毛です。兎の毛は生まれたばかりでした。だから、とても小さくてかわいかったです。そのあとは滴りでした。滴りは食べるのが大きすぎでしたから、ちよつと太っています。そして滴でした。滴は心がとても優しくかったですですが、ちよつとのろまでした。最後は、水玉と水滴の双子でした。いつも一緒にいましたから、区別するのが、難しいかったです。みんなはとても幸せでした。



私たちの主人公の名まえは滴です。滴には四人兄弟がいました。両親と兄弟はみんな雲にすんで

いました。この雲の名まえは日差しでした。日差しはとても大きくてまろい入道雲でした。

兄弟の中で一番小さいのが兎の毛です。兎の毛は生まれたばかりでした。だから、とても小さくて

かわいかったです。そのあとは滴りでした。滴りは食べるのが大きすぎでしたから、ちよつと太つて

います。そして滴でした。滴は心がとても優しくかったですですが、ちよつとのろまでした。

最後は、水玉と水滴の双子でした。いつも一緒にいましたから、区別するのが、難しいかったです。

みんなはとても幸せでした。

うのけ

しほり

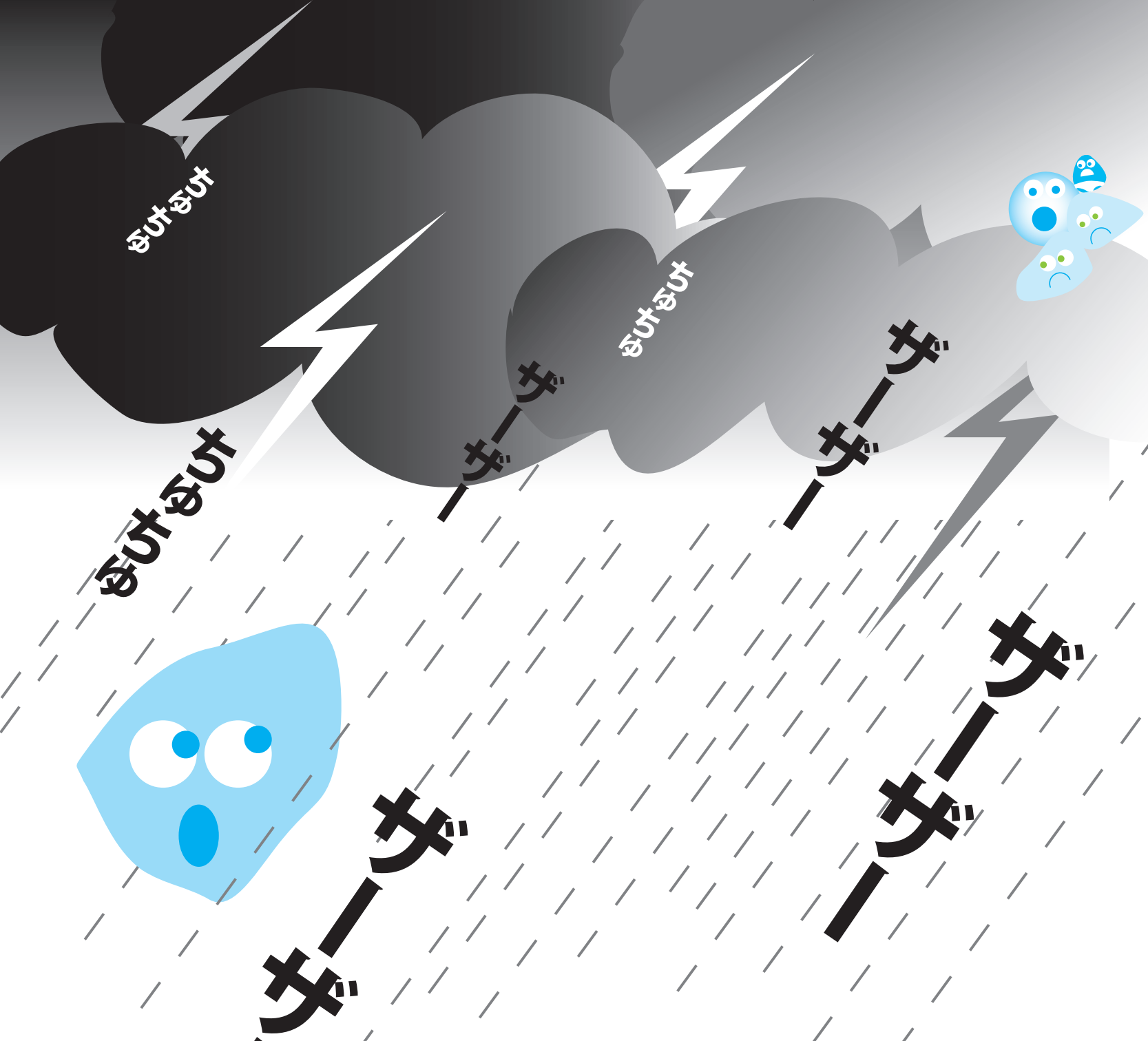
すくしゅ

したたり

みずたま

あ
ひ
や
る
日
も
み
ん
な
が
外
で
遊
ん
で
い
る
と
、
非
常
に
強
い
風
が
北
極
か
ら
吹
い
て
来
ま
し
た
。
風
は
大
嵐
に
な
り
ま
し
た
。
そ
の
雲
た
ち
は
真
面
目
で
、
黒
ず
く
め
で
し
た
。
滴
と
兄
弟
は
恐
か
つ
た
の
で
、
そ
れ
か
ら
み
ん
な
が
、
家
に
急
い
で
帰
り
ま
し
た
。し
か
し
、
風
が
強
か
つ
た
で
す
か
ら
、
滴
を
遙
か
遠
く
ま
で
連
れ
て
行
き
ま
し
た
。

だ
れ
も
聞
こ
え
ま
せ
ん
。長
い
間
、空
中
を
飛
ん
で
、滴
は
地
に
落
ち
ま
し
た
。ほ
か
の
水
滴
も
家
か
ら
離
れ
ま
し
た
。
滴
は
兄
弟
が
小
さ
く
な
る
の
を
見
て
い
ま
し
た
。で
も
、風
は
し
ず
く
よ
り
強
か
つ
た
で
す
。大
声
で
叫
ん
で
も
、
誰
に
も
聞
こ
え
ま
せ
ん
。長
い
間
、空
中
を
飛
ん
で
、滴
は
地
に
落
ち
ま
し
た
。ほ
か
の
水
滴
も
家
か
ら
離
れ
ま
し
た
。



地上に落ちたとき、滴はお尻がちよつと痛かったです。でも、すぐに滴は走らなければなりません。稲妻が滴のちかくに落ちたんです。滴はとてもびっくりしてやみくもに走りました。

すると、とても大きいアベニューに着きました。たくさんの方がいました。車もたくさんありました。滴は泣きたかったです。滴はとても大きい津波に出会いました。女の方がブーツで水溜りを振ったので、津波になったのです。この津波は滴をさらってトラックの車輪の中に入れました。滴はとても疲れていましたから、寝てしまいました。トラックがブレッキをかけたので、滴は起きました。

店の前に駐車しました。このトラックは町から村まで食べものを運搬していました。



シタシタ

ごわごわ

シタシタ

ごわごわ

滴は店に入ったときたくさんおいしい食べ物が見えました。滴はお腹が空いていましたから、すごい速さで食べました。彼は食べ終わると、振りむきました。そこに大きな口がありました。

滴は叫ぶと逃げ出しました。その犬はのどが渴いていました。滴は、犬の水入れのそばにいたんです。

滴は花瓶のところに急いで逃げて、土の中に隠れました。「ここなら僕は安全だ」と言って、滴は疲れていて、眠ってしまいました。眠っている間に根に吸い込まれました。滴は一晩寝ていました。

滴が目覚めたとき、多くのクリスタルが見え。滴は浮き始めました。

滴は何時間その中にいたのか覚えていませんでした。突然、滴はたくさんさんの明かりをみました。

どんどんとても暑く成つてきて、そしてみんなは緑になりました。今、滴はその植物の葉の上に乗りました。もう、自由です。天気がとてもよかったです。日差しは滴の中に入って虹を映しました。

とてもきれいです。滴は家を思い出し、家族を恋しがりました。そして、寂しくなりました。

でも、海を見つけました！滴の家はその海の上にあります。よかった！。たくさんさんがいました。

海は遠かったので女の人の袋に乗って一緒に海に着きました。



しかし、砂が暑かったので。滴は歩くことができませんでした。かれは亀を見つけて、亀に手伝いを頼みました。彼女の名前は真紀子です。亀の背中の上に乗って、一緒に海に行きました。そして滴は亀に感謝と別れの挨拶をしました。滴は、まだ問題を抱えていました。どのようにして家族のいる雲に帰れるのでしょうか。滴は悲しくて、疲れていて、泣き出しました。それを、鴎が、聞いていて、「なぜ泣いているの?」と尋ねました。「雲の家に帰りたい」滴が答えました。

「でも、飛ぶことができない。」鴎は心配する必要はないと言いました。彼女は滴を連れて、一緒に雲の家に飛んで帰りました。

でも、鴎はその雲につくことができませんでした。滴の兄弟は滴を見つけて、みんな喜んで、大騒ぎしました。兄弟と両親と友達に手を繋ぐと、とても長い列を作りました。滴の母は滴を掴んで、鴎にお礼を言って、雲の家に帰りました。それから、滴は黒い雲を見ると、とても気をつけるようになりました。

ポカポカ

フワフワ

ポカポカ

フワフワ



The image features a background of stylized, layered blue waves. The waves are composed of smooth, rounded shapes in various shades of light blue, creating a sense of depth and movement. The waves are arranged in a way that they appear to be rolling in from the right side of the frame.

©2009 Mercia Fuoco / Daniel Pontón